

2015年7月

## グローバル化と環境問題

浅野良裕

暑中お見舞い申し上げます。

暑い夏がやってきました。35℃を越える猛暑日が続き始めたのはまだそんなに以前ではなかったような気がします。最近ではこれも当たり前のようになってきました。まだ数十年前まではエアコンも冷蔵庫もなく、団扇や打ち水で涼をとっていたのに変化の速さに驚かされます。

干ばつや豪雨その他の異常気象、台風や地震・火山噴火も多発し、熱帯や亜熱帯の生物による被害も深刻化しています。

古来、人類は変化する自然環境の中で何とか適応し、生き延びてきました。狩猟農耕時代、その時代には自然は畏怖すべき存在であり、また食料を始め生きるのに必要なものすべてを与えてくれる神としての存在でした。人間は自然の一部であり自然に適応すべき存在であるため、自然災害が起きるとそれは人間が自然法則・神との約束を破ったためであり、特に為政者の責任と考えられたため、その回避のためにさまざまな儀式や祈りが奉げられてきました。

それが近代以降は科学技術の発展により、自然を改造し加工し人工的な環境の中で生活できるようになって来ました。そこで自然は畏怖すべき対象としてではなく、研究し支配下に置くべき存在としてみなされるようになってきました。

先進諸国では個々人の生活は安全になり、快適・豊かになってきましたが、今またそれらを飲み込むように、地球規模での問題、課題が発生してきています。

これまで人類はさまざまな問題、試練を乗り越えてきましたが、今度の問題はさらに大きなグローバルなイノベーションを必要としています。それは自然科学や技術だけでなく、社会科学、人間の心や精神も含めた統合的なイノベーションなのであります。

自然科学は遺伝子レベルや素粒子、宇宙の始原にまで、神の領域近くにまで迫ってきましたが、人間の心や精神の発展は数千年前とどれだけ向上しているかは疑問です。

自然科学・物の科学、社会科学・事の科学、人文科学・心の科学、これらの科学・学問の統合的な進化と生活＝生命活動の意識的な実践が、これからの未開の開拓地かもしれません。

この未開の開拓地は、誰の心や生活の中にも未知の領域として残されています。個人個人がその生きてきた歴史、生まれてきたミッションを振り返り、今の生活、仕事の中で忘れ、諦めてきた未開の分野を思い出し、とらわれや思い込み、執着を手放すとき、未知の能力や意識が開かれ、個人の歴史、人類の歴史、地球の歴史の新たなステージが始まるかもしれません。

暑い夏はそうした夢を現実化するための刺激なのかもしれません。

暑さ厳しき折、健康に留意しご自愛ください。